

## 中国の大学院における中国語国際教育の現状と課題 北京語言大学の中国語国際教育修士課程を中心に

著者	張 立波
雑誌名	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要
巻	4
ページ	299-306
発行年	2018-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00123111">http://hdl.handle.net/10097/00123111</a>

## 【研究ノート】

# 中国の大学院における中国語国際教育の現状と課題 —北京語言大学の中国語国際教育修士課程を中心に—

張 立波<sup>1)\*</sup>

1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構

近年中国国内外の中国語学習者の激増や学習ニーズの多様化に伴い、国内外における中国語教員の需要は大幅に増え、その質の向上が課題となった。この課題を解決するため、中国では、中国語国際教育修士課程が設置されている。しかし、この修士課程をどのように実施しているかについては、十分な検討が行われていない。そこで本稿では、中国語国際教育で世界的に高い評価をされている北京語言大学の修士課程の実態を調査し、加えてそこに在籍する学生対象のアンケート調査を行った。その結果、コア科目においては、この課程の応用、実践を重んじ、複合型中国語教育人材の育成という教育目標と一致していると言える。また専門選択科目の半数以上は中国語教育研究に関する科目で、研究能力の養成も重視されていることが判明した。一方学生対象のアンケート調査結果からわかるように、教育実践演習等の教育内容の充実については更なる課題が明らかになった。

## 1. はじめに

中国の経済発展に伴い、中国語学習者も急増してきた。世界では中国語学習者は2004年に3000万人未満、2015年には1億5000万人を越えている<sup>1)</sup>、全世界の中国語教育機関は71,861機関があり、170の国と地域で中国語科目や中国語専攻を提供している。また60国が法令によって国家教育制度に中国語教育を取り入れており、米国、日本、韓国、タイ、インドネシア、モンゴル、オーストラリア、ニュージーランドなどでは、中国語を第3言語から第2言語へ引き上げている<sup>2)</sup>。一方、中国では203の国と地域から留学生を受け入れており、その数は377,054人に達している（王 ほか 2015）。

これらに伴い、中国国内外における中国語教員の需要は大幅に増え、その質の向上も課題となり、従来型の中国語教育人材育成体制は、この現状に対応しきれなくなった。このような課題を解決するため、中国では、国内外の中国語学習ニーズに応える中国語教員養成プログラムがいくつか創設された。

中国における中国語教員養成に関する新たな展開について、これまで本格的な研究はあまり行われなかった。

日本におけるこれらに関する研究は、概ね二つ種類

にとどまる。一つは中国外交戦略の文脈における解釈に傾くもの、例えば、「中国語の海外展開戦略」（王 2005）、「中国の対外教育—孔子学院を中心に—」（馬場毅 2010）などがその例である。もう一種類は個人レベルの体験報告に留まるものであり、例えば「国外漢語教員来華研修項目」（山本 2010）がある。

このような現状を踏まえて、本稿は上記した中国語教員養成プログラムのうち、中国政府においては特に制度面、資金面、人材面などで力を入れる中国語国際教育修士課程（Master of Teaching Chinese to Speakers of Other Languages、以下は中国語MTCSOLと略する）を取り上げ、最初に設置された中国語MTCSOLの大学の一つである北京語言大学の中国語国際教育修士課程を中心に、その具体的な内容を明かにし、その上、在籍する学生対象のアンケート調査の分析を通して、中国語国際教育修士課程の特徴と課題を明らかにする。

## 2. 中国における中国語MTCSOL設立の経緯と現状

中国経済の発展によって、世界中の中国への関心は高まり、世界各地で、中国語を習得しようとする人々の数は急速に増大してきている。中国教育部国家言語文字委員会が公開している「中国語言語生活状況報告

\*) 連絡先：〒980-8576 仙台市青葉区川内41 東北大学高度教養教育・学生支援機構 libo.zhang.d4@tohoku.ac.jp

書(2005)」によれば、2005年全世界中国語学習者数は4000万近くとなっているが、実際に中国語国際教育に従事している者は未だ4万人に達していない。すなわち、中国語教員対学習者の割合は1:1000となっていることがわかる。特に東アジア、東北アジアでは、中国語教員数が不足している状態が顕著になっているという(陳 2008)。このような状況に対応するためにも、中国語教員の養成が至急の課題である。特に求められているのは、高度な専門能力である。それは、様々なニーズに対応でき、海外に適応できる柔軟なコミュニケーション能力をもつ人材の育成である。

実際、中国当局は早くも1983年から、幾つかの大学で「外国人向け中国語学科」を設置し、1986年には、修士課程をも設立した。1999年、北京語言大学は、外国人向け中国語教育の博士課程を設置した。これらの卒業生は外国人向け中国語教育のための専門人材の受け皿になるのが狙いである。しかし、これらの従来型の育成体制では、学部の場合は中国の国語学科教育内容と同一のもので、修士課程、博士課程は研究者の育成に重点を置いたため、中国語教育の現場に実際に求められている中国語教員のニーズに合致していないことが深刻な問題として表出してきた。このような問題を解決するにあたって、中国政府が中国語教員養成プログラムをいくつか創設した。そのうち、特に力を入れたのが中国語MTCSOLである。これは、2007年に、中国国務院学位委員会<sup>3)</sup>が「中国語国際教育修士課程コース学位教育を実験的に実施すること及び中国語国際教育修士課程コース学位教育指導委員会候補者の実施に関する通達」<sup>4)</sup>により、24の大学は試験的に中国語MTCSOLを設置するようになって、その後、数多くの大学がこのプログラムを設立した。このプログラムの目的は、応用、実践を重んじ、高水準の複合型中国語教育人材の育成である。

現在、中国語MTCSOLを設置した大学は計112校である。このうち、2016年から募集停止の大学は清華大学と中南大学で、2017年に当該課程を新設した大学は天津大学、燕山大学、江蘇大学3校であった。また、上海にある同済大学は非全日制のみ募集している。吉林華橋外国語学院は112校のうち唯一の私立大学である。中国語MTCSOLを設置した大学112校の分布に

ついて、中国23省のうち21省、5自治区のうち3自治区、4直轄市に分布しており、最も集中しているのは北京市で12校もある。設置数の最も少ない地域は山西省、貴州省、海南省、内モンゴル自治区であり、それぞれ1校のみである。設置されていない地域はわずか2省と2自治区である。このことから中国語MTCSOLの設置は新設されてから、わずか10年の間で全国に行き渡っていることがわかる。

募集者数は、公表されていない大学もあるが、公表されている大学を見てみると5~150人である。募集者数は大学によって異なるが、外国人向け中国語教育と研究において歴史の長さや実力のある大学ほど募集人数が多い。例えば、北京師範大学、北京語言大学、四川大学の募集人数はそれぞれ100~150名程度である。しかし、中には例外もある。例えば、山東大学は中国の985<sup>5)</sup>、211<sup>6)</sup>認定大学で、中国大学ランキング20<sup>7)</sup>にもかかわらず、2017年現在定員枠は5名しかない。募集人数が公表されている大学では、山東大学は最も少ない大学の一つである。全国的な統計は公表されていないため、年間募集人数が明らかになっていないが、およそ3000~5000名であると推定できる。

学制について、全国中国語国際教育修士課程コース学位教育指導委員会秘書処が作成した「全国中国語国際教育修士レベルコースモデルカリキュラム」(以下はモデル案と略する)によれば、中国語MTCSOLの学制は2年と定められている。それにしたがって、多くの大学は2年と設定している。しかし、一部の大学は2.5~3年と設定している。華中科技大学は全日制の学生が2年、非全日制の学生が3年と設定している。

中国語MTCSOLは通常文学学科や外国人向け中国語教育学科で設置されている。中には、外国語学科で設置されている大学もある。コースについて、ほとんどの大学は中国語国際教育のみのコースとなっているが、例外も見られる。例えば遼寧省の瀋陽大学においては外国語学院では、「中国語国際教育理論と実践」と「中華文化と多文化交流」の二つのコースを設置している。又、同大学の文法学院では、「中国語国際推進」と「中国語要素と教育指導」の二つのコースを設置している。このように、一つの大学では、中国語国際教育プログラムにおける四つのコースも設置されている

大学もある。これは数少ない例である。

中国語MTCSOLの学費は6000～20000元／年である。一部の大学は全日制の学生と非全日制の学生とそれぞれ学費を設定している。ほとんどの大学では非全日制の学費を全日制の学費より少し高めに設定しているが、河南理工大学は全日制の学費を8000元／年、非全日制の学費を7000元／年としており、全日制の学費が非全日制の学費より少し高めに設定されている。学費が公表されている大学では、煙台大学、新疆大学では学制は二年間で学費は最も安く、6000元／年と設定している。

このように、中国語MTCSOLは2007年に24大学で試験的に設置され、2017年の10年間では112校までに増えた。中でも外国人向け中国語教育では研究と教育において最も実力のある大学の一つは、北京語言大学が挙げられる。北京語言大学は中国が建国して間もなく設立した中国語教育及び中国語教員育成を中心とする専門大学である。現在では北京語言大学は外国人向け中国語教育において最も代表的な大学であり、当該大学の事例を通じて、中国語MTCSOLの現状と課題を明確にしているからと考えられる。

### 3. 北京語言大学中国語国際教育MTCSOL

北京語言大学の中国語MTCSOLは2007年に設置され、中国では最初に中国語MTCSOLを認定された24大学の一つである。北京語言大学においては、2014年～2016年の入学者数は150人、119人、99人である。年々減少しているが、各大学の募集人数から見れば、北京語言大学の入学者数は中国の同課程を持つ全大学のうち最も多い。本コースの教育目標は次の通りである。

熟練した中国語を第二言語とした教授能力と、優れた中国文化の伝達技術及び海外に適応できる柔軟なコミュニケーション能力の養成を目的としている。同時に世界に向けた中国語推進プログラムの実現に適し、様々なニーズに対応でき、応用、実践を重んじ、高水準の複合型人材の養成を目指す。具体的には以下の4点を挙げることができる。1. 優れた専門的能力及び知識意欲を備えていること。2. 熟練した中国語を第二言語とした教授能力を備え、先進的かつ効率的な授業の実践が可能であること。3. 中国文化を十分に理

解した上での推進活動と海外に適応したコミュニケーション能力を備えていること。4. 言語文化プログラムの管理及び統括能力調和能力を備えていること。

#### 3.1 応募資格と選抜方法

応募資格は、モデル案によれば、大卒者または同等の能力があると認められる者である。

入学者の選抜は下記のように行われている。入学者の選抜試験は1次試験と2次試験がある。1次試験としての全国統一入試は毎年秋学期期末に実施される。1次試験の試験科目は、政治理論（国が統一的に出題する、100点）、英語（国が統一的に出題する、100点）、専門基礎科目1：中国語基礎（募集機関が独自に出題する、150点）、専門基礎科目2：中国語国際教育基礎（募集機関が独自に出題する、150点）。2次試験の試験科目は、筆記試験（募集機関が独自に出題する、100点、試験問題範囲は1次試験の専門基礎科目と同じである）、専門面接試験（募集機関が独自に出題する、100点）、英語面接試験（募集機関が独自に出題する、100点）。

採点について、最終点数は1次試験合計点×60%＋2次試験合計点×40%となっている。ただし、1次試験の政治理論と英語はそれぞれ国に決められている合格ラインに達さなければならない。また、1次試験トータル合格ラインと各試験科目の合格ラインをクリアした者を対象にした各募集機関において実施する2次試験を経て最終合格者が決定される。2次試験の当日は健康診断を受けることとなっている。

#### 3.2 教育方法と学修期間

教育方法については、全日制で、カリキュラム学習と漢語国際教育の実践、漢語国際教育と中国文化推進及び伝達、学内または学外における指導教員による教育の合同教員養成方法を採用している。

学修期間について、三年（内カリキュラム学習は一年、実習は一年、卒業論文作成は一年）である。

#### 3.3 単位取得と修了要件

カリキュラムは実用的な内容を以って教育指導を行う。国際漢語教師の条件を満たした人材となることを

目標に、対外中国語教育指導力、中国文化の推進及び伝達能力、海外に適応したコミュニケーション能力等の国際漢語教師の条件を満たした人材となることを目標に、上述した教育目的の達成を目指すコア科目を中心に、その他の科目を補充し、実践トレーニングに重点を置いた充実した内容となる。

モデル案によれば、中国語MTCSOLの学生は、修了するには必修科目と選択科目を合わせて38単位以上を取得しなければならない。北京語言大学の中国語

MTCSOLはそれに基づき、共通必修科目（7単位）、専門必修科目（10単位）、専門選択科目（60単位）、専門実践（4単位）に分け、学生に30単位の取得を求めている（表1）。また、修了するには、上記の科目30単位の他、教育実習及び学術活動6単位、学位論文4単位が必要である。

表1 北京語言大学における中国語MTCSOLのカリキュラムと単位

カリキュラム		名称及び単位数
共通必修科目（計7単位）		マルクス主義及び社会科学方法論（1単位）
		中国特色のある社会主義理論及び実践研究（2単位）
		英語1（2単位）
		英語2（2単位）
専門必修科目（計10単位）		中国語言語学（2単位）
		第二言語習得論（2単位）
		第二言語としての中国語の教授法（2単位）
		技能別の中国語の教授法（2単位）
		中華文化及びグローバルコミュニケーション（2単位）
専門選択科目（計56単位）	言語類	中国語と諸外国語の比較（韓国語、英語、日本語、ロシア語）（2単位）
		中国語における認知文法トピック研究（2単位）
		中国の言語（2単位）
		中国語談話分析トピック研究（2単位）
		中国語インタラクション言語学トピック研究（2単位）
		漢字概論（2単位）
		中国語音韻概論（2単位）
		中国語語彙概論（2単位）
		中国語文法概論（2単位）
	教学類	中国語テスト及び授業評価（2単位）
		授業調査及び案例診断（2単位）
		中国語教材トピック研究（2単位）
		中国語教授法の歴史（2単位）
		第二言語としての中国語の書面語教授法（2単位）
		漢字教授法研究（2単位）
		ビジネス中国語教授法研究（2単位）
	文化類	地域文化概論（国別）（2単位）
		現代中国概論（2単位）
		国際政治及び経済トピック研究（2単位）
	教育類	中華伝統芸能（上、下）（2単位）
		教授行動及び教師成長／教師成長概論（2単位）
		外国語教育心理学（2単位）
		教学モデル及び教学管理研究（2単位）
		児童心理発達及び成長（2単位）
	方法類	孔子学院研究（2単位）
		論文の読み書き（2単位）
		ビックデータによる社会系研究方法（2単位）
		コンパスによる言語分析方法（2単位）
	第二外国語	日本語（2単位）
		スペイン語（2単位）
学術活動及び教育実習（計6単位）		学術活動（2単位）
		教育実習（4単位）
学位論文（計4単位）		学位論文構想発表（2単位）
		学位論文口頭質問／面接試験（2単位）

注 北京語言大学国際教育学部の関係者が提供した資料を元に筆者作成

### 3. 4カリキュラム内容に関する考察

北京語言大学のカリキュラムはモデル案に基づき、北京語言大学の当該コースの入学者の本科生課程の専門及び社会的要請等に作成されたものである（表1を参照）。専門必修科目（10単位）においては、言語類が2単位、教学類が6単位、文化類（中華文化及びグローバルコミュニケーション）が2単位で、これは中国語MTCSOLの応用、実践を重んじ、複合型中国語教育人材の育成を教育目標としていることと一致している。また、共通必修科目では、英語が4単位で、これは卒業必要科目単位の1割を占めている。英語の研究文献や英語で中国語の授業を行うことを想定していると予想される。しかし、上記のモデル案では、50%のコア科目は外国語または二つの言語で授業を行うと規定しているが、北京語言大学ではすべての科目は中国語で行っている。これは北京語言大学の伝統である。専門選択科目60単位を見てみると、専門選択科目の半数以上は中国語教育研究に関する科目で、研究能力の養成も重視されていることがわかる。また、共通選択科目においては、第二外国語として日本語とスペイン語を開講している。これは日本やスペイン圏の国々の中国語学習ニーズに関係しているからだろう。同じく開講されているビジネス中国語教授法研究は社会的要請からだと考えられる。

近年、重視されている情報通信技術の活用法については、中国では、学部レベルの段階で身につけている学生が多いため、カリキュラムに入れなかったと関係者が言う。教育実践演習について、後述のアンケート調査では学生からの指摘が最も多かった。モデル案によれば、グループ学習、案例分析、現場研究、模擬授業などの形態で、在籍中、100以上の教育案例を学習すると述べているが、現時点では北京語言大学においては行われていない。

### 4. アンケート調査と分析

2017年9月に北京語言大学中国語MTCSOLに在籍している32名の学生を対象に、学生の属性、選択理由、中国語教育の経験、中国語MTCSOL教育の評価や要望等に関するアンケート調査（アンケートについての添付資料を参照）を実施した。全員からの回答を得ら

れた。その結果は次の通りである。

学生の性別を見ると、32名のうち、男性4名、女性28名である。教員も同じような傾向が見られる。筆者は三年間北京語言大学で実施されている中国語教員研修を受けていた。毎回8講座を受けているが、その内1講座か2講座は男性教員により行われた。香港の教育大学における中国語教員養成コースも男子学生が少ないという報告があった（今野 ほか 2017）。

出身校を見ると北京語言大学出身の学生は2名のみである。北京語言大学は外国人向け中国語教育では、研究と教育において最も実力のある大学であるが、総合大学でもなく、中国の985,211大学でもない。大学入学偏差値の高い大学と言われているが、中国の大学ランキングからみると100位に入っていない。学部生は将来就職のため、北京にあるまた他の都市の大学ランキングの高い大学に進学していると推測ができる。これについて、北京語言大学関係者のインタビューによると、確かに北京語言大学出身の学生は少ないと認めたとえ、原因は複数あると言って、まず、学部卒業生は将来の就職のため、従来の「学位」は「専門職学位」<sup>8)</sup>より社会的認知度が高いため、就職の時に有利になるため、公務員などにもなれる専門の大学院に進学するケースが多いと言う。

学部専攻について、32名のうち、中国語教育は16名で最も多い。英語言語文学は8名で二番目に多い。中国語言語文学は7名である。残り1名は国際ビジネスである。中国語MTCSOLに進学している者は主に中国語教育、英語言語文学、中国語言語文学の三つの専攻に集中していることが窺える。

年齢を見ると、22歳から28歳までである。全員が30代以下の学生である。

入学以前の正社員としての就業経験は、「経験がある」7人（22%）、「経験がない」25人（78%）。全体の8割弱の学生が正社員としての就業経験はない。

中国語国際教育経験について、「経験あり」23人（72%）、「経験なし」9人（28%）。「経験あり」23人のうち、「常勤教員としての中国語国際教育経験がある」7人である。7割以上の学生は中国語国際教育に関わっている。

選択理由について、「外国人に中国語を教えること

が好きである」19名（56%）、「外国にいきいたいから」は2名、「たまたま」は2名、「学部専攻がこれだったから」2名、「専門知識を深めたい。研究者になりたいから」は1名、「中国語教育に関する知識と経験を獲得したい」は1名、「外国に行って、外国人教師になれば、格好いいと思うから」1名である。「外国に行って、中国文化を広めたい」1名である。無回答は3名である。半分以上の学生が、外国人に中国語を教えることへの関心で選択している。

最後に、自由回答形式により、カリキュラムの内容や授業に対して改善点について、答えていただく項目を設けた。その結果をまとめると下記の通りである。北京語言大学中国語MTCSOLの学生は同大学の卒業生が少ない。7割以上の学生は中国語国際教育に関わっている。半分以上の学生が、外国人に中国語を教えることへの関心で選択している。ただし、カリキュラムの内容については、多くの学生が満足しておらず、言語としての中国語の授業や教育実践練習へのフィードバックを増やしてほしいとしている。このことから教育指導体制の更なる充実が求めているといえよう。

## 5. 考察とまとめ

以上の分析考察で明かにしたように、北京語言大学の中国語国際教育修士課程（MTCSOL）はカリキュラムの内容について、次のような特徴がある。まず、コア科目においては、この課程の応用、実践を重んじ、複合型中国語教育人材の育成という教育目標と一致している。つぎに、専門選択科目の半数以上は中国語教育に関する科目で、研究能力の養成も重視されていることがわかった。さらに共通選択科目においては、第二外国語として日本語とスペイン語を開講している。これは日本やスペイン圏の国々の中国語学習ニーズに関係しているだろう。同じく開講されているビジネス中国語教授法研究は社会的要請からだと考えられる。

この中国語MTCSOLについて、新設されてから、まだ十年であり、各大学はより良いカリキュラムの提供を模索してきている。より良い教育内容の提供は、北京語言大学を含めた多くの大学に共有された問題である。

学生の学習の実態把握（動機や希望を含む）とそこから得られたものは中国語MTCSOLの提供を前進させていくための土台でもある。筆者は行った調査から、次のような問題点を指摘する。

まず、実態についての感想の中では、とりわけカリキュラムの内容に関する意見、特に理論的授業と実践的授業のアンバランスについての指摘が多い。確かに筆者による北京語言大学の中国語MTCSOLに携わる担当者への聞き取り調査では、第二言語習得を専門とする教員はあまりいない、ほとんどの教員は中国語言語学を専門とし、海外における英語のような第二言語習得理論に関する知識は必ずしも豊富ではない。これにより、中国語MTCSOLカリキュラムの内容は、従来型の中国語修士課程の内容とは区別が付きにくい。

この点と関連して、本調査の自由記述の中に多くの学生が「教育実践演習を増やしてほしい」との意見が見られる。中国語MTCSOLは“応用、実践を重んじ、高水準の複合型人材の養成を目指す”と謳えるといえ、実際のカリキュラムでは、それらは必ずしも反映していない。北京語言大学の中国語MTCSOLでは、通常一年目で卒業必要単位を取得し、二年目で教育実習を行い、三年目に卒業論文の執筆となっている。問題は一年目の授業内容は、二年目の教育実習の内容とリンクしておらず、また教育実習中遭遇した問題がフィードバック体制がないため、学生がせっかく実習経験をいかしていないまま、三年目の卒論に没頭してしまう。

最後に、学生の就職に対する不安である。この専攻が好きだから選んでいる学生が多い、しかしながらその就職先の確保はかならずしも容易ではない。2017年北京語言大学の中国語MTCSOL卒業者は150人であるが、実際に中国内外において中国語教師として就職できたのはわずか20名だと言う。それには様々な理由が考えられる。そのうちもっとも顕著なのは、海外では中国語MTCSOLに対する認知度が低いことである。中国国内でも、来華留学生を対象とする中国語教育を実施している大学は約400余りに上っているが、これらの大学のほとんどは博士号の取得者のみを採用している。これより中国語MTCSOL卒業者の国内就職は難しくなる。

注：

- 1) 中国産業信息. 2017. “中国産業信息ウェブサイト”  
<http://www.chyxx.com/industry/201606/427133.html>, (2017-11-08).
- 2) 光明日報. 2018. 光明日報ウェブサイト  
[http://news.gmw.cn/2017-10/28/content\\_26629387.htm](http://news.gmw.cn/2017-10/28/content_26629387.htm), (2018-01-08)
- 3) 中国国務院学位委員会. 2017. “Science Portal China ウェブサイト” “(中国の高等教育機関の) 学位委員会は、一定の条件を備えた大学や科学研究機関に対して学位授与権限を付与し、学位授与権限を認められた大学の学科等の学位授与拠点が学位取得申請者の学術審査を行い、その結果を国務院および学委員会へ報告する.”  
[http://www.spc.jst.go.jp/policy/science\\_policy/organization/org\\_01.html](http://www.spc.jst.go.jp/policy/science_policy/organization/org_01.html), (2017-11-08)
- 4) 中華人民共和国教育部. 2017. “中華人民共和国教育部ウェブサイト (中国の高等教育機関の) 学位委員会は、一定の条件を備えた大学や科学研究機関に対して学位授与権限を付与し、学位授与権限を認められた大学の学科等の学位授与拠点が学位取得申請者の学術審査を行い、その結果を国務院および学委員会へ報告する”  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe\\_826/200712/t20071210\\_82702.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_826/200712/t20071210_82702.html), (2017-11-08)
- 5) Science Portal China. 2017a. “中国語国際教育修士課程コース学位教育を実験的に実施すること及び中国語国際教育修士課程コース学位教育指導委員会候補者の実施に関する通達 (原語: 关于开展汉语国际教育硕士专业学位教育试点工作和推荐全国汉语国际教育硕士专业学位教育指导委员会委员人选的通知) 1998年5月4日、江沢民が北京大学創立100周年大会で、「現代化の実現のため、中国は世界先進レベルの一流大学を持つべき」と提言した.これを受け、教育部は「21世紀に向けた教育振興行動計画」を実施する中で、「985プロジェクト」として世界一流の大学とハイレベルの大学を目指す一部の大学を重点的に支援することとなった.”  
[http://www.spc.jst.go.jp/education/higher\\_edct/hi\\_ed\\_3/3\\_1/3\\_1\\_4.html](http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_3/3_1/3_1_4.html), (2017-11-08)
- 6) Science Portal China. 2017b. “「211プロジェクト」は「21世紀」へ向けて中国全土に「100余り」の重点大学を構築することから名付けられた国家プロジェクトである.”  
[http://www.spc.jst.go.jp/education/higher\\_edct/hi\\_ed\\_2/2\\_1/2\\_1\\_1.html](http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_2/2_1/2_1_1.html), (2017-01-08)
- 7) 新東方教育. 2017. “山東大学ランキングは20位となっている. 2017年度中国大学ベスト100”  
<http://gaokao.xdf.cn/201702/10612921.html>, (2017-11-08)
- 8) 中国の修士課程は大きく2種類に分かれている.一つは理論的な学習を重視し、学術研究を通し、学術学位 (Academic Degree) が授与される.もう一つは応用、実践を重んじ、高水準の複合型人材の養成を目標とし、専門職学位 (Professional Degree) が授与される.中国語MTC SOLは専門職学位である.

#### 参考文献

- 馬場毅. 2010. “中国の対外教育—孔子学院を中心に—”. (電子ジャーナル) ICCS現代中国学ジャーナル.
- 今野文子, 趙秀敏, 三石大. 2017. “香港教育大学における中国語教員養成のカリキュラム”. 高度教養教育・学生支援機構紀要. 第3号, 207-212.
- 漢碩ネット. 2017. “中国語国際教育修士課程ウェブサイト”  
<http://www.zwky.org/category-4-b0.html>, (2017-11-08)
- 王欣. 2005. “中国語の海外展開戦略”. 島根大学外国語教育センタージャーナル. 創刊号, 127-136. 第2巻, 第1号, 212-220.
- 王祖嫻, 吳応輝. 2015. “汉语国际传播发展报告 (2011-2014)”. 新疆师范大学学报 (哲学社会科学版). 第36巻第4期, 92-99.
- 北京語言大学. 2017. “漢語国際教育学部ウェブサイト”  
<http://hjxb.blcu.edu.cn/>, (2017-11-08)
- 陳曦. 2010. “中国における専門職学位の動向”. 名古屋高等教育研究, 第10号, 237-251.
- 陳青妮. 2008. “论汉语国际教育硕士专业的课程设置”. 语言文字应用. 2009年8月第3期, 105-112.
- 劉俊莉. 2014. “汉语国际教育硕士专业的发展现状及问题”. 理论导报. 第10号, 59-61.



山本範子. 2010. “『国外漢語教師来華研修項目』参加報告”. 北星論集 (文). 第47巻, 第2号, 83-91.

全国汉语国际教育硕士专业学位教育指导委员会秘书处. 2011. “汉语国际教育硕士专业学位研究生指导性培养方案”, 1-16.

資料: アンケート調査

質問	答え	人数
1. 性別	男	7人
	女	25人
2. 年齢	22歳—24歳	21人
	25歳—28歳	11人
3. 入学以前に正社員としての就業経験があるか.	経験がある	7人
	経験がない	25人
4. 中国語国際教育経験があるか.	経験がある	23人
	経験がない	9人
5. 常勤中国語教員としての就職経験があるか.	経験がある	7人
	経験がない	16人
6. 選択理由	外国に行きたい	19人
	たまたま	2人
	学部専攻と同じ	2人
	知識を深めたい・研究者になりたい	1人
	中国語教育に関する知識と経験を獲得したい	1人
	外国に行って、中国語教師になれば、格好いい	1人
	外国に行って、中国文化を広めたい	1人
7. 中国語国際教育修士課程の実態についての感想を書いてください.		
1). カリキュラムやシラバス: ①実習が終わった後授業を行う. または, まず授業をして, 実習をし, 次に, 授業をする教育システムだったら, よいのではないかと思う. ②実践型の授業を増やしてほしい. ③一般教育学の授業, 人文類の選択科目, 第二外国語の言語種類を増やしてほしい. ④実践指導授業を増やしてほしい. ⑤一つまたは二つの第二外国語の授業を開講してほしい. ⑥国際中国語教育に関連するカリキュラムは中身が深く充実している. ⑦カリキュラムの基準化. ⑧内容は十分充実しているとは言えない. 教員 (大学) は私たちの学習や就職にもっと感心を持ってほしい. ⑨カリキュラムを基準化させ, 実践指導授業を増やしてほしい. ⑩授業を減らしてもいい. 授業のために必読する文献については宿題にし, 他の宿題量を控え, 深く研究する時間がほしい. ⑪宿題はコースの要件が反映でき, 関連授業をもっと増やしてほしい. ⑫実践型の授業が少ないと思う. それから授業では学生による模擬授業への費やす時間が多く, 先生の模擬授業へのフィードバックが少ない. ⑬言語としての中国語に関する授業が少ないため, 言語としての中国語で説明できない場合が多い. ⑭学習者によって具体的な教授法や教育学理論に基づく実践法をたくさん教えてほしい. ⑮学生が様々な教育実践をするよう奨励すべき. ⑯少人数クラスで, レポート形式をとり, 教員によるフィードバック. ⑰学部生の時に学んだものとはほとんど変わらない. 進歩したと実感が無い. ⑱養成コースには少し問題がある.		
2). 進路: ①卒業後, 教師になりたいが, それは外国人向けの教師ではない. ②卒業後, 博士課程に進学したい. ③教師になりたい. ④卒業後, 中国語教師ではない仕事をしたい. ⑤この専攻が好きで, 卒業後, 中国語国際教育に従事するだろうと思う. ⑥この職業はビジネス競争力がない. それは言語そのものからの問題ではなく, 政治, 社会の問題から起こった問題である. 卒業後, この仕事に就こうと思うが, でも, 十分な勇気が必要である. 一生この仕事を続けることができるかどうかは定かではない. ⑦たくさんの職業があり, 中国語教師のハードルが低い. 多くのよい機会は性格によって決められている. この仕事に従事したいならば, 能力と知識だけではなく, 最も重要なのは性格だと思う. ⑧卒業後, なんの仕事が見つからない場合, 対外中国語教師を選ぶ. ⑨卒業後, 中国語教師, または教材編集の仕事をしたい. ⑩卒業後, 仕事が見つかりにくいのではないだろうか. ⑪将来, もしかしたら, 中国語教育に関する仕事はしないだろう.		